

## I. 問題と目的

障害者権利条約<sup>2)</sup>において、障害者への合理的配慮の徹底が求められている、その中の重要な事項として、障害者権利条約第9条において、「障害者が情報通信(インターネットを含む)を利用する機会を有することを確保するための適切な措置を講じ、それを妨げる障壁を撤廃すること」との規定があり、ウェブアクセシビリティの確保の必要性が指摘されている。このことは、障害のある受験生にも関わることであり、文部科学省は平成26年度大学入学者選抜実施要項<sup>3)</sup>から各大学にウェブアクセシビリティの確保を求めている、平成26年大学入学者選抜実施要項においてウェブアクセシビリティの確保が求められてから10年が経過しているが、しかし、現在の大学におけるウェブアクセシビリティの確保の状況が明らかになっていない。

これらのことから本研究では、国立大学のホームページ(以下、HP)における障害のある受験生の対応情報へのアクセシビリティの令和4年度の状況について調査する。そして、調査結果より国立大学のHPにおける障害のある受験生の対応情報へのアクセシビリティの状況を把握し、障害のある受験生が対応情報へ容易にアクセスできるよう、特に検討・改善が必要である事項を明らかにすることを目的とする。

なお本研究において、国立大学のHPに限定したのは、障害者差別解消法第4条<sup>4)</sup>において、障害者差別を解消するための措置の中で国立大学は障害のある受験生への合理的配慮の提供を法的義務化されているためである。

## II. 方法

### 1. 対象校及び対象データ

国立大学86校の各HP

### 2. 期間

2022年1月5日～2022年2月17日

### 3. 方法

日本工業標準調査会(JISC)が2004年に制定し、2016年に改訂した『高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』(以下、JISX8341-3:2016)の達成基準のうち、総務省<sup>5)</sup>が行った障害のある方々のインターネット等の利用に関する調査結果を参考にし、【知覚可能】【操作可能】について評価した。なお、その下位項目としては、表1に示した【知覚可能】1.1.1(非テキストコンテンツ)、1.4.3(コントラスト(最低限レベル))、1.4.4(テキストのサイズ変更)、1.4.5(文字画像)、【操作可能】2.4.1(ブロックスキップ)、2.4.2(ページタイトル)、2.4.3(フォーカス順序)、2.4.4(リンクの目的(コンテキスト

内) ) , 2.4.5 (複数の手段) , 2.4.6 (見出し及びラベル) の適応の有無である。

表 1 国立大学HPにおけるアクセシビリティ評価項目

	評価項目	評価内容
知覚可能	1.1.1 (非テキストコンテンツ)	非テキストコンテンツを聴覚情報に変換することができる
	1.4.3 (コントラスト (最低限レベル) )	テキストとその背景との間に十分なコントラストがある
	1.4.4 (テキストのサイズ変更)	テキストの拡大縮小を設定することができる
	1.4.5 (文字画像)	テキストのサイズ変更などができるイメージタグがある
操作可能	2.4.1 (ブロックスキップ)	利用者が必要な情報へ素早く到達することができる
	2.4.2 (ページタイトル)	各ウェブページにその内容を示すページタイトルがある
	2.4.3 (フォーカス順序)	利用者がコンテンツの意味に添って情報にアクセスすることができる
	2.4.4 (リンクの目的 (コンテキスト内) )	内部リンク先の内容が分かりやすい表記である
	2.4.5 (複数の手段)	検索フォームを使って必要な情報を調べることができる
	2.4.6 (見出し及びラベル)	コンテンツの内容を表す見出しが分かりやすい表記である

### III. 結果

#### 1. 国立大学の対応状況

国立大学HPのウェブアクセシビリティへの対応状況は図1に示したようであった。上位3件に関して見てみると、まず28校は9項目が該当していた。このHPは識別性においては、テキストと背景との間に十分なコントラストがあり (1.4.3) ,テキストの拡大縮小を設定することができ (1.4.4) , テキストのサイズ変更などができるイメージタグがある (1.4.5) 状況であった。併せて、操作性においては、利用者が必要な情報へ素早く到達することができ (2.4.1) , 各ウェブページにその内容を示すタイトルがあり (2.4.2) , 利用者がコンテンツの意味に添って情報にアクセスすることができ (2.4.3) , 内部リンク先の内容が分かりやすい表記であり (2.4.4) , 検索フォームを使って必要な情報を調べることができ (2.4.5) , コンテンツの内容を表す見出しが分かりやすい表記である (2.4.6) 状況であった。次に23校は4項目が該当していた。このHPは識別性においては、テキストと背景との間に十分なコントラストがある (1.4.3) 状況であった。併せて、操作性においてはウェブページにその内容を示すタイトルがあり (2.4.2) , 利用者がコンテンツの意味に添って情報にアクセスすることができ (2.4.3) , 検索フォームを使って必要な情報を調べることができる (2.4.5) 状況であった。そして、20校は7項目が該当していた。このHPは、識別性においては、テキストと背景との間に十分なコントラストがある (1.4.3) 状況であった。併せて、操作性においては、利用者が必要な情報へ素早く到達することができ (2.4.1) , 各ウェブページにその内容を示すタイトルがあり (2.4.2) , 利用者がコンテンツの意味に添って必要な情報にアクセスすることができ (2.4.3) , 内部リンク先の内容が分かりやすい表記であり (2.4.4) , 検索フォームを使って必要な情報を調べることができ (2.4.5) , コンテンツの内容を表す見出しが分かりやすい表記である (2.4.6) 状況であった。

学校数	知覚可能				操作可能					
	1.1.1	1.4.3	1.4.4	1.4.5	2.4.1	2.4.2	2.4.3	2.4.4	2.4.5	2.4.6
28		○	○	○	○	○	○	○	○	○
23		○				○	○		○	
20		○			○	○	○	○	○	○
7		○	○	○		○	○		○	
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2		○			○		○	○	○	○
1		○		○	○	○	○	○	○	○
1	○	○	○	○		○	○		○	
1		○				○	○			

図1 国立大学HPのアクセシビリティ実施状況（○は対応済）

これまで述べた 28 校、23 校、20 校の識別性に関する項目：画像などの非テキストコンテンツを聴覚情報に変換することができる（1.1.1），テキストと背景との間に十分なコントラストがある（1.4.3），テキストの拡大縮小を設定することができる（1.4.4），テキストのサイズ変更などができるイメージタグがある（1.4.5）に注目すると、画像などの非テキストコンテンツを聴覚情報に変換することができる（1.1.1）工夫は全く実施されていない状況であった。なお、3校は全ての評価項目 10 項目が該当していた。

## 2. 評価項目の達成状況

国立大学HPの評価項目の実施率は表 2 に示したようであった。操作性に関する項目の実施率は全て 50%以上であり、識別性に関する項目の実施率はテキストと背景との間に十分なコントラストがある（1.4.3）工夫を除く項目の実施率は全て 50%未満であった。

表2 大学HPの評価項目ごとの実施状況

評価項目	知覚可能				操作可能					
	1.1.1	1.4.3	1.4.4	1.4.5	2.4.1	2.4.2	2.4.3	2.4.4	2.4.5	2.4.6
学校数	4	86	39	40	54	84	86	54	85	54
実施率	4.7%	100%	45.3%	46.5%	62.8%	97.7%	100%	62.8%	98.9%	62.8%

そして、操作性に関する項目と識別性に関する項目それぞれを見ると、操作性に関する項目で利用者が必要な情報へ素早く到達することができる（2.4.1）工夫は 54 校(62.8%)が実施していた。次に、ウェブページにその内容を示すタイトルがある（2.4.2）工夫は 84 校(97.7%)が実施していた。そして、利用者がコンテンツの意味に添って情報にアクセスすることができる（2.4.3）工夫は 86 校（100%）の実施していた。さらに、内部リンク先の内容が分かりやすい表記である（2.4.4）工夫は 54 校（62.8%）が実施していた。検索フォームを使って必要な情報を調べることができる工夫

(2.4.5) は 85 校(98.9%)の実施していた。コンテンツの内容を表す見出しが分かりやすい表記である (2.4.6) 工夫は 54 校 (62.8%) が実施していた。

識別性に関する項目で画像などの非テキストコンテンツを聴覚情報に変換することができる

(1.1.1) 工夫は 4 校 (4.7%) が実施していた。次に、テキストと背景との間に十分なコントラストがある (1.4.3) 工夫は 86 校 (100%) が実施していた。そして、テキストの拡大縮小を設定することができる (1.4.4) 工夫は 39 校 (45.3%) が実施していた。さらに、テキストのサイズ変更などができる イメージタグがある (1.4.5) 工夫は 40 校 (46.5%) が実施していた。

#### IV. 考察

調査結果より、評価項目 10 項目を全て実施していた学校は 3 校だけであり、多くの国立大学は実施している評価項目数からみてウェブアクセシビリティの確保について検討すべき状況であることが明らかになった。その中でも、特に検討・改善が必要である対応情報のアクセスの容易さ、聴覚的支援、視覚的支援について検討を加えたい。

##### 1. 対応情報のアクセス

障害のある受験生の対応情報のアクセスの容易さに関し、内部リンク先の内容が分かりやすい表記である (2.4.4) , コンテンツの内容を表す見出しが分かりやすい表記である (2.4.6) の項目からみるとHP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツがある学校は 54 校であった。さらに、この 54 校を利用者が必要な情報へ素早く到達することができる (2.4.1) の項目からみると、図 2 に示したようにHPのポータルサイトから対応情報へ到るまでのマウスクリック数が 5 パターンにわかれた。もっとも多いマウスクリック数は 7 回であり 2 校が該当していた。一方で、もっとも少ないマウスクリック数は 3 回であり 2 校が該当していた。このことに関し、ウェブページの主たるコンテンツへより直接的なアクセスをできるようにするといった達成基準が示されている<sup>6)</sup> ため、更なる検討が必要となろう。

なお、HP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツがなかった 32 校は、HPに掲載されている募集要項を閲覧すれば障害のある受験生の対応情報を確認できる状況ではあった。

クリック数	3	4	5	6	7
学校数	2	32	15	2	2
例	ポータルサイト ↓ 入試情報 ↓ 対応情報	ポータルサイト ↓ 入学案内 ↓ 障害等のある志願者への受験上の配慮 ↓ 対応情報	ポータルサイト ↓ 受験生の方へ ↓ 受験生サイト ↓ 障害のある者の出願 ↓ 対応情報	ポータルサイト ↓ 受験生 ↓ 受験情報 ↓ 受験日程 ↓ 障がい等のある入学志願者の事前相談について ↓ 対応情報	ポータルサイト ↓ メニュー ↓ 入学希望のみなさまへ ↓ 受験生サイト ↓ 入試案内 ↓ 障がいのある入学志願者との事前相談 ↓ 対応情報

図2 ポータルサイトから対応情報へ到るまでのマウスクリック数

## 2. 聴覚的支援

画像などの非テキストコンテンツを聴覚情報に変換することができる（1.1.1）の項目については、Microsoft Edge、Google Chromeなどのウェブブラウザソフトに標準装備されている音声読み上げ機能を使えば、HPにあるPDFデータも聴覚情報に変換できることとなる。そのため、HP上にあるPDFデータ化された入学者選抜要項を聴覚情報に変換することが可能となるため、86校全てが基準を達成したこととなる。

しかし、Microsoft EdgeやGoogle Chromeの音声読み上げ機能では、HP上にある障害のある受験生の対応情報が掲載されている入学者選抜要項の該当頁へダイレクトにアクセスをすることはできない。そのため、障害のある受験生の対応情報のアクセスの容易さからすると十分な状況にあるとは言えない。

また、ウェブブラウザソフトの音声読み上げ機能を使用しなくとも、HP上に独自の音声機能を実施している大学に限定すると、基準を満たす大学は4校しかなかった。さらに、この4校において、前項で取り上げたHP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツがある大学54校のうちの2校であった。残りの52校はウェブブラウザソフトに標準装備されている音声読み上げ機能にて音声情報に変換できる状況ではあるものの、障害のある受験生が対応情報へ容易に

アクセスすることができる状況ではなかった。残りの2校は、HP上に独自の音声機能を実施している状況ではあるものの、障害のある受験生が対応情報へ容易にアクセスすることができる状況ではなかった。

こうしたことから52大学には、HPを作成するシステムそのものから変更しなければならない状況<sup>1)</sup>にあるケースもあることは予測されるが、HP上のコンテンツを聴覚情報に変換できるような対応も望みたい。また、HP上に独自の音声機能を実施している2大学には、HP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツの掲載も併せて期待したい。

### 3. 視覚的支援

テキストとその背景との間に少なくとも4.5:1のコントラスト比がある(1.4.3)の項目については、86校全てのHP上においてテキストと背景との間に少なくとも4.5:1のコントラスト比があった。

しかし、テキストのサイズ変更やコントラスト調整、音声読み上げができるがある(1.4.5)の項目に関し、利用者がHP上のコントラストを調整することができる大学は14校しかなかった。さらに、この14校において、前項で取り上げたHP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツがある大学54校のうちの10校であった。残りの44校は、HP上において十分なコントラストが確保されている状況ではあるものの、障害のある受験生が対応情報へ容易にアクセスすることができる状況ではなかった。残りの4校は、利用者がHP上のコントラストを調整することができる状況ではあるものの、障害のある受験生が対応情報へ容易にアクセスすることができる状況ではなかった。

こうしたことから44大学には、HP上において利用者がコントラストを調整することができるような対応を望みたい。また、利用者がHP上のコントラスト調整をすることができる4大学には、HP上に障害のある受験生の対応情報について特記しているメインコンテンツの掲載も併せて期待したい。

## 文献

- 1) 浅井菜子・坂本裕(2023)：国立大学ホームページにおける障害ある受験生への情報アクセシビリティに関する訪問調査。岐阜大学教育学部特別支援教育センター年報, 30, 17-19.
- 2) 外務省(2014)：障害者の権利に関する条約
- 3) 文部科学省(2013)：平成26年度大学入学者選抜実施要項(通知)
- 4) 内閣府(2016)：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
- 5) 総務省(2012)：障がいのある方々のインターネット等の利用に関する調査研究(結果概要)
- 6) ウェブアクセシビリティ委員会(2016)：WCAG2.0解説書 <https://waic.jp/docs/UNDERSTANDING-WCAG20/Overview.html>, (参照 2023/01/16)